

第32回 抗議デモ・学習会

5月14日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 「ひかりの輪・上祐史浩の正体」

ひかりの輪は「脱麻原」を標榜し、近年では「宗教団体ではない」とまで主張している。表向きの思想には一見反社会性はなさそうに見え、重大な組織的行為は確認されていない。現状のひかりの輪を分析すれば、あえてカルトと呼べる要素は少ない。しかしひかりの輪代表上祐史浩は、オウム真理教というテロ組織の元幹部であり、麻原彰晃に最も近い存在であった。地下鉄サリン事件後の顛末や、その後の上祐史浩の言動などには、何ら信ぴょう性が感じられず、未だ外部に対しては不誠実なウソつき教団である。

講師：藤倉善郎氏



藤倉善郎氏の略歴

1974年、東京生まれ。大学在学中の97年頃から、大学内で流行した自己啓発セミナーの問題を取材。「北海道大学新聞会」で連載記事を執筆。04年からフリーライターとして、宗教も含めたカルト問題を取材。09年にニュースサイト「やや日刊カルト新聞」を創刊(現在、所属記者は9名)。近年は特に幸福の科学の問題を取材している。ひかりの輪については、2008年に上祐史浩氏にインタビュー。13年に上祐氏とトークイベントで共演し、上祐氏を直接批判した。

主催：烏山地域オウム真理教対策住民協議会

後援：世田谷区

オウム真理教対策住民協議会ニュース

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

パンフ「こんな勧誘にご用心」の配布

「こんな勧誘にご用心」申し込み状況
(平成27年度)

	大学名	希望枚数
1	東京医療保健大学	500
2	国士舘大学	4,000
3	産業能率大学	30
4	昭和女子大学	1,650
5	成城大学	1,500
6	多摩美術大学	50
7	東京農業大学	2500
8	日本女子体育大学	600
9	日本大学商学部	1,600
10	日本大学文理学部	500
11	東京都市大学	100
		13,030

オウム真理教を知らない若い世代が増える中、住民協議会では、毎年、区内大学の新生向けに、「日本脱カルト協会」が発行しているカルトの勧誘を防ぐためのパンフレット「こんな勧誘にご用心」を購入し、配布しています。

今年も11大学から約1万3千部の申し込みがありました。パンフレットは、新生に配布できるように各大学にお届けしました。

抗議デモ・学習会へのお誘い

オウム真理教との闘いもすでに15年が経過し、抗議デモも32回を数えることになりました。長い期間の闘いは、活動に参加していただく方々も高齢化してきました。安心安全な烏山地域をつくる活動の継続を考えると、新たな皆さまの参加が待たれます。多様な世代の参加はオウム真理教に脅威を与え、活動が一層活発になるでしょう。一人で参加するのは勇気がいることですが、抗議デモ・学習会への参加を呼びかけます。

「地下鉄サリン事件から21年の集い」に参加して

3月13日東京交通会館で行われた、地下鉄サリン事件から21年の集いに参加してきました。「死刑について—オウム事件を考える—」と言うテーマでパネルディスカッション形式で行なわれました。パネラーは、弁護士小川原優之氏、フォトジャーナリスト藤田庄一氏、ジャーナリスト江川紹子氏の三氏、以下要旨と感想となります。

死刑廃止は国際社会の大きな流れであり、国連は死刑存置国に対し、死刑執行停止を求める決議をしています。(死刑廃止または停止している国140カ国、2013年に死刑執行した国は22カ国)日本では日弁連が、犯罪被害者と遺族の精神的・社会的・経済的支援と死刑のない社会へと取り組むべきと、死刑廃止について議論を呼びかけています。しかし、13人が死亡、6000人以上が負傷した地下鉄サリン事件で、大切な家族を失った遺族、心的外傷後ストレス障害を抱える被害者、心身の傷が癒えない被害者、未だに後遺障害やトラウマなどに苦しみを続けている被害者の思いは違いました。「罪を償うべきだ」「死刑でよかった」「まだ死刑が執行されていないのはおかしい」「早く死刑を執行してもらいたい」と、皆一様に死刑はあるべき姿と考えている人が多数です。終身まったく刑務所から出られない制度は必要だ

が、終身刑は死刑の代替案にはならず、国の税金で一生面倒を見るのは、被害者と公平ではないとの意見もあります。死刑・無期徒刑(仮釈放あり)・終身刑の問題は、世論に委ねるだけでなく、公論で時間を費やし入念に検討されなければなりません。

オウム真理教事件の実行信者の裁判は、刑事裁判の限界もあり、宗教団体が犯した犯罪との視点からの追及が弱く、信者がなぜあのような行為に走ったのかと言う、内面の追及が必要でした。さらに問題なのが、空前の無差別テロでありながら、信者が認めれば一審で裁判が終結してしまい、事件の真相の解明が出来ないとの問題もあります。実行信者の多くは「地下鉄サリン事件は、何を目的で実行したのか知ることはできなかった」と語っている通り、教団や信教の内面を多面的に研究し、それを歴史に残していかなければなりません。

話しを聞いて、二度とこのような事件が起きないように、まず自分たちが、地域の人たちが、この問題を忘れることなく考えなければならないことです。住民協議会も、オウム真理教解散・解体をスローガンに、これからも闘い続けることが大切と確信しました。

「オウム真理教を『死刑』にできないのですか？」この言葉が耳に残ります。

オウム真理教(ひかりの輪)の謎に迫る①

オウム真理教(当時アレフ)は、烏山地域へ集団入居後間もなく、信者が道路を清掃、国民融和室の名称を掲げたテントを施設前に設置するなど、住民との融和のポーズを示したことがあった。ところが、地域住民に関心がないと見るや、早々に撤去し、その後は住民との接触を避けるようになった。一方アレフから脱退したひかりの輪は、住民に対し施設見学の誘い、上祐が発行した書籍や資料を、住民協議会に届ける行為を続ける。このことから、アレフとひかりの輪では、住民への対応の違いは明らかだ。上祐は2007年にひかりの輪を設立以来「良き理解者」である著名人などと対話し、共感を得ているとホームページに動画を流す。さらに、教祖でなく代表と名乗り、ひかりの輪を仏教哲学のサークルと称し「危険のない団体」として、様々な手法で情報を発信し、社会にアピールしてくるひかりの輪について考えてみる。今回取り上げるのは、目玉の活動と言われる外部監査委員会だ。松本サリン事件で夫人を亡くし、自身も冤罪被害者に仕立てられた河野義行氏を中心に、4年前に発足したが、住民協議会では当初より、外部監査委員会は観察処分解除を目的に、ひかりの輪が始めたものと主張してきた。その委員会が、発足からしばらくは定期的に会議を開催していたが、2014年9月を最後に1年近く開催がない事を、昨年9月15日発行の当ニュース148号で指摘した。するとそれに呼応する

かのように、10月に、ほぼ一年ぶりに会議の開催と、河野委員長の辞任が公表された。河野委員長ありきだった外部監査委員会は、新たな委員長も決まらず、苦渋の選択として、委員長代行の形態を続けると言う。一昨年の公安審査委員会による観察処分決定前後の、外部監査委員会の鈍い動き、委員長の辞任劇などを見ると、観察処分解除ありきの活動だと憶測されても仕方がないだろう。上祐にとってこの事態は想定外で、今後の外部監査委員会の継続も雲行きが怪しい。さらに、ひかりの輪の観察処分解除の条件に「近隣住民との和解」という、より高いハードルも待ち受けており、ひかりの輪の現状は、八方塞がりと言え。ひかりの輪はこの状況に敏感に反応し、近頃は抗議デモへの立ち合いの拒否、監視活動の住民に対し上祐の過剰な反応など、住民との和解とは逆行する状況が続いている。今度こそはと臨んだ、5回目の観察処分解除の挑戦も、決定的な敗北に終わったショックが尾を引いているようだ。しかし目的達成のためには、あらゆる可能性を求めて立ち向かってくるのが上祐だ。上祐をそれほどまでに駆り立てるひかりの輪の真の目的とは何か、油断のならない謎に満ちた上祐と、ひかりの輪の追及はこれからも尽きない。

※外部監査委員会:外部より人選し、ひかりの輪の組織や活動を監査し評価する制度。委員の人選は、ひかりの輪の理解者を意図的に選定、ひかりの輪に都合の良い評価を期待し、観察処分解除の根拠を狙った。

住民協議会活動報告

3月2日(火) 四者会議準備会
住民協議会と関係機関で協議を行った
3月8日(火) 事務局会議
3月13日(日) 地下鉄サリン事件から21年の集いに参加
3月13日(日) 新樹苑もちつき大会で募金活動
3月17日(木) 実行委員会
3月20日(日) 第14回足立区の抗議デモ・集いに参加
3月28日(月) 協議会ニュース154号初校正
4月1日(金) バザー物品受付

4月2日(土) 上北沢さくら祭りで募金活動
4月3日(日) バザー物品受付
4月4日(月) 協議会ニュース154号再校正
4月5日(火) バザー部品受付
4月7日(木) バザー物品受付
4月8日(金) バザー物品値付け
4月9日(土) 第10回リサイクルバザー
4月11日(月) 事務局会議
4月12日(火) 協議会ニュース154号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。